

一つひとつは小さな作業でも、日々の積み重ねが『安全』につながっています

東北電力では『安全を尽くして、安心を皆さまに』を合言葉に社員一人ひとりが業務に取り組んでおり、東通原子力発電所においても様々な活動を行っています。今回のPSとうしんでは、そうした数ある活動の中から、普段から行われている『日常的な取り組み』にスポットを当ててご紹介いたします。

日々、発電所の状態を確認!地道な作業が発電所を支えます

発電所の中央制御室では、発電所の状態を示す各計器の少しの変化も見逃さないよう、運転員が24時間体制で運転・監視しています。また、毎日定期的に設備のパトロールを行い、故障の未然防止・早期発見に努めています。

放射線についても定期的に測定を行い、厳重な監視・管理により、被ばく線量低減に向け取り組んでいます。



3交代、24時間体制で運転・監視を行います



放射線の測定結果を記録して安全を確認します

さらに発電所敷地内にある原子力技術訓練棟で、万が一に備え、様々な事象を模擬しながら迅速かつ確実に対応できるよう、徹底した訓練も行っています。

約230名の社員一人ひとりが、各々の持ち場で役割を担い、確実に実行することが、発電所全体の安全を支えているのです。

協力会社と連携をとり、安全意識向上にむけ工夫を凝らしています



正面玄関に掲げた安全標語

発電所には社員以外にも、数多くの協力会社の方々が働いています。安全は何か一つが欠けても成り立ちません。そこで、当社と協力会社の意思疎通を図るために、各社が参加する会議の場を設けるなどして、安全作業に関する知識や情報を共有するなど、コミュニケーションの充実を図っています。

また、発電所で働く方々全員から『安全標語』を募集し、優秀作品を発電所内に掲示したり、作業時の注意点や過去の事故事例のポスターを各所に掲示するなど、ヒューマンエラー防止と安全意識の向上に努めています。



掲示内容を確認し、作業に活かします

危機管理面での活動も強化しています

これまでも消防訓練について何度か紹介していますが、東通消防署のご協力のもと、消防設備の使用方法を学んだり、酸素ボンベ装着訓練を行うなど、迅速かつ適切な行動ができるようスキル向上に取り組んでいます。



装着訓練に取り組む当社社員

また、情報管理の面でも対応策を講じています。情報管理の徹底は非常に重要性が増しており、当社でも社外からのウィルス流入阻止はもちろん、社内からの情報流出に備えて技術的な対策を施しています。また、実際に情報を取扱う社員の意識が重要との考えのもと、情報を扱う能力の向上を含めた社員教育を実施するなど、危機管理に対する意識向上も図っています。

これからも社員・協力会社の方々が一丸となり、地道な作業を積み重ねながら「安全最優先」を第一に取り組み、地域から信頼される発電所を目指してまいります。

電気について、ちょっとだけ考えてみませんか～3月25日は電気記念日～

日本に電気が灯ってから130年余りが経ちました。今では、テレビ・パソコン・エアコンと様々な形で電気が使われるようになり、当たり前のような存在になっています。電化製品の普及・進化により、年々、電気の使用量が増えてきました。



地球温暖化の一因と言われる二酸化炭素の排出量削減が求められている今日、私たちは少量の燃料で大きなエネルギーが得られる原子力発電をはじめ、水力・火力・風力・太陽光発電を上手に合わせた発電方法で、皆さまに安定した電気をお届けしております。

3月25日は『電気記念日』です。普段何気なく使っている電気について、省エネや地球温暖化防止の観点から、見つめなおしてみませんか。

～電気記念日とは～

明治11年(1878年)3月25日、東京に電信中央局が新築され、祝賀会が工部大学校(現在の東京大学工学部)で開催されました。その祝賀会において工部大学校教授のエアトン氏が、日本で初めてアーク灯を点灯させました。

このことから、社団法人日本電気協会は、日本における電気事業の発祥を記念するため、昭和2年(1927年)に3月25日を『電気記念日』と制定しました。